



六字城

発行 真宗大谷派（東本願寺）天満別院

大阪市北区東天満一―八―二六

電話 六三五一―三五三五
代表者 輪 番 長谷山法雄

報恩講日程

十月三日（火）

・初速夜 法話 午後一時半
大阪教区第六組願光寺住職
茨田 通俊 師

十月四日（水）

・晨 朝 午前七時
・日 中 午前十時
婦人部報恩講
御伝鈔拝読

・結願速夜 法話 午後一時半
大阪教区第六組願光寺住職
茨田 通俊 師

十月五日（木）

・結願晨朝 午前七時
・報徳会 午前十一時
・結願日中 午後一時半
法話 大阪教区第六組願光寺住職
茨田 通俊 師

十月の法座・行事

- 二日・真如上人御祥月御命日（午前八時）
- 三日～五日・報恩講
- 五日・教如上人御祥月御命日
- 十二日・闡如上人御命日（午前八時）
- 十三日・闡如上人御祥月御命日（午前八時）
- 十四日・巧如上人御祥月御命日（午前八時）
- 二十七日・宗祖聖人御逮夜（午後二時）
- 二十八日・宗祖聖人御命日（午前八時）

◆天満別院門徒会

御正忌団体参拝のご案内

この度、真宗本廟では来る十一月二十一日（火）から二十八日（火）にかけて「御正忌報恩講」が厳修されます。

天満別院門徒会といたしましては、左記の日程で「御正忌報恩講」へ団体参拝を計画しております。

皆様お誘い合わせの上、是非ご参加くださいますようお願いいたします。

日時 二〇一七年十一月二十六日（日）
午前八時出発

参加費 お一人五千円

ご門徒の皆様には、同封いたしましたしまたご案内をご確認ください。

ねてもさめても

へだてなく

南無阿弥陀仏を

となうべし

（法語カレンダーより）

霊園・墓石



藝太田石材店

本社 〒536-0001
本店 大阪市城東区古市1丁目23番20号
〒530-0042
大阪市北区天満橋1丁目2番18
TEL 06-6930-5075
0120-30-5075
FAX 06-6930-5078

来る十月三日から五日まで例年のごとく天満別院報恩講を勤修いたします。 つきましてはご門徒のご婦人の皆様にお手伝いをお願いしたいと存じます。一日だけでも結構です。 ご参加いただきますようお願い申し上げます。 日程 十月三日（火） 午前十一時半より 十月四日（水） 午前八時四十五分から午後五時迄 十月五日（木） 午前九時から午後五時迄	
◆天満別院報恩講の お手伝いのお願い	
◆秋季彼岸会並総永代経法要兼 墓地納骨（物故者） 追弔法要	
去る九月二十四日、秋季彼岸会並総永代経法要 兼 墓地納骨（物故者）追弔法要を勤修致しました。法要後の法話には大阪教区第十二組清澤寺前住職 澤田 秀丸 師にお話いただきました。 「如来様は私を助けるため、親となり、子となり、妻となり、夫となり、善人となり、悪人となり、智者となり、愚者となり、あるいは生きてみせ、あるいは死んで、あるいは打ち、あるいはなでて、お育てくださったのです」といつていたご門徒の人がおられたが、よくよく考えてみると、如来はこの身にまでなつて私を生かし、お育てくださりつづけているのです。我が身といっているが、この身は久遠劫からの如来さまのお慈	悲の おはからいのたまものである。 おれが、われがといっているが、阿弥陀仏の救済はわが身に成就しているのです。おれがで生きているのではありません。阿弥陀如来のおたすけにあった我れだった。そのたまりたる自身をよく聞け。こう呼びかけておつてくださるのが六字の名号である。本願成就文に「聞其名号 信心歓喜」とある。こんな尊い身をいただきながら、そのご恩をいかに知らないわが身であったことに気付く。それだけ大きなご恩に生かされているのです。「ご恩を知ると 自分を大切にする」（あるお寺の揭示板に）ご恩を知ることと自分を大切にすることは別ではない。一つである。ご恩をしらないと大切な自分をすてる、悲しいことです。仏法はすてられないわが身に気付くことではないでしょうか。

「和讃のおはなし」 真宗大谷派 鍵役 宣心院 大谷 暢文 『現世利益和讃（六）』 南無阿弥陀仏をとなふれば 四大天王もろともに よるひるつねにまもりつつ よるずの悪鬼をちかづけず （南無阿弥陀仏とお念仏を称えるならば、四大天王の四人の王がともに、昼夜を問わずまもってください、さまざまな悪鬼を近づけないのです。）	
このご和讃は、四大天王の侍衛の利益を詠ったものです。このご和讃の典拠となる經典は『金光明經』です。この經典の「序品」や「四天王品」には、四大天王の四人の王が、仏法を信ずる者を昼夜一時も離れず守護して下さり、あらゆる悪鬼を祓い、近づけることがないと述べられております。 四大天王はとてもなじみのある諸神です。欲界六天の第一である天界の四方にいらつしやる四人の天王です。東方は持国天、南方は増長天、西方は広目天、北方は多聞天です。このように四方の天下を護つてくださっているのが「護世の四天王」とも呼ばれます。 四天王というと浄土真宗と縁もゆかりもないように思われますが、そうではありません。四天王といえば、大阪の四天王寺を思い浮かべられる方も多いと思います。この四天王寺は、物部守屋と蘇我馬子の争いの際に、聖徳太子が戦勝祈願に建てられたものとされています。戦勝祈願というと現代の感覚では好戦的な感じがしますが、聖徳太子の意図はそうではなく、争いを早く終わらせ、一刻も早く平和な世の中	へ戻るようにとの思いが込められていました。そして争いを終わらせ、仏教精神に基づいた国家を作ろうとなさいました。そのようなことから、聖徳太子は和国の教主と仰がれるようになります。聖徳太子の偉業は『十七条憲法』や『冠位十二階』などから見て取れます。聖徳太子は、まさに日本における初めての仏教実践者といえることができるでしょう。そのような聖徳太子を敬慕し仰いだ仏教者は多くいました。私たちの宗祖・親鸞聖人もその一人です。ただ親鸞聖人の場合は、あくまでも念仏者として聖徳太子を信奉されました。ここにある四天王は『阿弥陀經』にある念仏者を諸仏が護念することが説かれています。四天王を諸仏になぞらえたのでしょうか。また、悪鬼とは煩惱ということではないでしょうか。私たち凡夫は、なかなか煩惱を絶つことはできません。しかしその煩惱に翻弄されたならば、お念仏もなかなか出はこないでしょう。ですから煩惱に翻弄されないように「よろづの悪鬼をちかづけず」という表現を用いられたのです。